

ほのぼの研通信新年号

第20号 2016年1月発行

発行者:NPO法人ほのぼの研究所

発行責任者 代表理事 大武美保子

〒277-0882 千葉県柏市柏の葉6-2-1

<http://www.fonobono.org/>



新年のご挨拶

あけましておめでとうございます

旧年は、「防ぎうる認知症にかからない社会」につながる、共想法を起点とする新しい認知症予防事業の創出に向けて、これまでも増して、多方面との連携による事業を展開した一年となりました。活動を支えて下さったすべての方々に、心より感謝申し上げます。

第一に、2014年よりはじめた街歩き共想法は、大学、病院、企業との連携により、ヘルスツーリズム事業としての展開を意識して開催しました。

2015年3月には、愛知県豊田市足助町において、名古屋大学と足助病院との連携により、病院を中心とする健康な街づくりと観光による地域活性化をはかるモデル事業として実施しました。また、同じく3月に、千葉県柏市柏の葉スマートシティにおいて、スイスの研究者を主な対象に、インバウンドの健康観光のモデル事業として実施しました。科学技術振興機構、スイス大使館、チューリッヒ大学が共催する、日本—スイス合同ワークショップの現地視察の受入機関として協力しました。

11月には、千葉大学普遍教育科目「地域NPO活動体験」実習生、大日本印刷株式会社ソーシャルイノベーション研究所、株式会社JTBコーポレートセールス法人営業千葉支店と連携し、千葉県成田市成田山新勝寺および成田山公園一帯で実施しました。街歩き共想法に加えてフォトブックを作成することで、事業としての付加価値を高める可能性を探りました。

第二に、「防ぎうる認知症にかからない社会」の土台となる「高齢者が役割を持ち、多世代へ貢献することができる社会」において共想法を活用する方法を明らかにするため、共想法の多世代への展開と、多世代による実施運営に取り組みました。

2015年1月から2月にかけて、科学技術振興機構の調査事業として、多世代が参加するワークショップを開催し、高齢者が若者・次世代を支える持続可能な社会の実現に必要な要素を明らかにしました。

さらに、新たな取り組みとして、8月より千葉大学の実習生を6名受け入れ、企業と連携し、上述したように、フォトブックを作成する本づくり街歩き共想法の企画運営を支援しました。

第三に、年2回、夏と冬に自主事業として開催してきた講演会を、地域の産業振興を支援する公的機関との共催事業として実施しました。

具体的に、2015年6月の設立記念講演会は、千葉県柏市の東葛テクノプラザにおいて、千葉県産業振興センターと共催しました。12月のクリスマス講演会は、千葉県千葉市の千葉市ビジネス支援センターにおいて、千葉県産業振興財団と共催しました。いずれも、講演だけでなく、参加者がアイデアを出し合うワークショップの時間を設ける、参加型の企画としました。

一連の活動実績が認められ、2015年3月には、コープみらい地域かがやき賞を受賞し、8月には、大同生命財団の助成に採択されました。10月には、当研究所の大武美保子代表理事・所長が、千葉大学先進科学賞を受賞しました。

新年は、これまで活動を共にした、もしくは、今後の展開に必要な組織と連携しながら、活動と共に人の流れを作り出し、活動の推進に携わる人の輪を拡げながら、共想法の事業化を通じた「防ぎうる認知症にかからない社会」の実現に向けて、歩を進めたいと思います。

本年もご指導ご鞭撻ご支援のほど、よろしく願い申し上げます。

NPO法人ほのぼの研究所代表理事・所長
千葉大学准教授 大武美保子

2015年十大ニュース

- 1. 千葉大学普遍教育科目「地域NPO活動体験」実習生受け入れ**
千葉大学学生による成田山街歩き共想法の企画運営を、企業と共に指導、支援
- 2. 成田山街歩き共想法開催**
千葉大学普遍教育科目実習生、大日本印刷株式会社ソーシャルイノベーション研究所、株式会社JTBコーポレートセールス法人営業千葉支店と連携
- 3. 足助街歩き共想法開催**
名古屋大学、足助病院と協働で実施
- 4. スイス柏の葉街歩き共想法開催**
科学技術振興機構、チューリッヒ大学、スイス大使館共催の日本—スイス合同ワークショップ参加者の現地視察に協力
- 5. 設立記念講演会開催**
千葉県産業振興センターとの共催、ワークショップを実施
- 6. クリスマス講演会・ビジネス交流会開催**
千葉市産業振興財団との共催、ワークショップを実施
- 7. 多世代共創ワークショップ開催**
科学技術振興機構社会技術研究開発センタープロジェクト企画調査に協力
- 8. ほのぼの研究所、コープみらい地域かがやき賞、受賞**
地域の課題解決のための優れた活動・事業に尽力している団体に対してその功績を表彰する賞
- 9. ほのぼの研究所、大同生命厚生事業団シニアボランティア活動助成、採択**
「高齢者・障害者の福祉やこどもの健全な心を育てる交流のボランティア活動」を行なっている年齢60歳以上の人々の活動に対する助成
- 10. 大武先生、千葉大学先進科学賞、受賞**
萌芽的、或いは独創的視点に立った研究により顕著な研究業績を挙げた千葉大学の若手研究者に授与される賞

2015年ビジネス交流会・クリスマス講演会

共同主催:公益財団法人 千葉市産業振興財団・NPO法人ほのぼの研究所

ヘルスツーリズム —健康観光事業の創出に向けて—

2015年12月15日13時30分より、恒例のクリスマス講演会(正式名称「ビジネス交流会/クリスマス交流会」)を千葉市中央区のきばー(Qiball)15階の千葉市ビジネス支援センター多目的室にて開催し、民産官学から70名が参加しました。

ジェイティビー高橋伸佳氏による、ヘルスツーリズムをテーマとした特別講演、ほのぼの研究所大武美保子代表理事・所長による、街歩き共想法をテーマとした基調講演の後、個人ワークショップも実施されました。

準備に当たっては、ビジネス交流会開催のご経験豊富な千葉市産業振興財団のご担当の、下田由美様、梶智裕様に、全面的にご協力を頂きました。この場を借りて、感謝申し上げます。



特別講演:「ヘルスツーリズムの過去・現在・未来—新事業創出のポイント」

事業創出の環境が整ってきた今こそ好機

ヘルスツーリズム(科学的根拠に基づく健康増進・維持・回復・疾病予防につながる観光)は、旅行中の健康効果ばかりでなく、旅行をきっかけとした生活の質の向上を図るための手段として、も注目されるようになってきました。1990年代後半以降続いている「健康ブーム」により、国民の健康に対する知識は底上げされ、新しい健康増進ビジネスの創出に結びついています。

少子高齢社会の進展を背景にした2014年の日本再興戦略の柱のひとつとして、「健康産業の活性化と質の高いヘルスケアサービスの提供」が挙げられました。また、商品の品質(効果)評価ばかりでなく、ビジネスとしての価値を評価する様々な社会的仕組みも構築されつつある中、従来の隙間産業的ではない、新しいマーケットを獲得する機が整ってきています。

所長を務めるヘルスツーリズム研究所では、旅行商品の企画はもとより、他機関とも連携して調査研究等を行うと同時に、ビジネス創生のためのサポートも行っています。



株式会社ジェイティビー
高橋伸佳氏

基調講演:「多世代共創による健康観光支援サービスの開発」 —街歩き共想法の事業化に向けた取り組み—

健康観光支援サービス(ヘルスツーリズム企画)としての「街歩き共想法」

NPO法人ほのぼの研究所、は防ぎうる認知症にかからない社会を目指して、認知症予防を目的とする会話支援手法「共想法」を、サービスとして社会実装しています。平均70歳代の市民研究員、が同年代ばかりでなく、未来の高齢者である多世代との共創に挑戦しています。

2014年から始めた共想法と街歩きを組み合わせた「街歩き共想法」は、共想法をさらに発展させた、会話に必要な「話題探し」と「会話の仲間づくり」を支援する、体験記憶の活用を支援する手法です。これまで国内外の大学、企業、病院との連携運営、さらにはワークショップでの討議結果を踏まえて、千葉大学地域NPO活動体験の実習受け入れ等を通して、多世代による展開、実施運営へと、数多く取り組んできました。さらにそれを本づくりと結びつけた「本づくり街歩き共想法」を開発する、多世代による産学連携も進行中です。今後、より多くの企業との連携で、本格的事業化へ結びつけたいと考えています。



NPO法人ほのぼの研究所
代表理事・所長
大武美保子氏

ワークショップ:「千葉でヘルスツーリズム」

「自身のアイデアで”千葉でヘルスツーリズム”企画に挑戦しよう!」のテーマで個人ワークショップの時間が20分ほど設けられ、参加者は先の講演から得た知見やこれまでの体験等から、思い思いのアイデアに知恵を絞りました。講師陣の目にとまった企画は続く交流会で発表されるという告知もあり、真剣に取り組んでいました。



2015年ビジネス交流会・クリスマス講演会・交流懇親会

講演会終了後、設営のための休憩をはさんで、趣を一新した会場に三々五々56名の参加者が集まってきました。

16時には、ほのぼの研究所の田口良江研究員の司会により、大武美保子所長から「普段は会えない方と大いに交流して、全員がお互いに、一言ずつでもいいので会話をして下さい」という開会の辞が述べられました。それを皮切りに、千葉興業銀行 営業統括部 ソリューション支援室部長代理の眞田心哉氏の乾杯の音頭へと続き、ビジネス交流会は次第に盛り上がっていきました。飲み物で喉を潤したころには、株式会社ジェイティビーグループ本社事業創造部企画・開発部長の高橋氏と大武美保子所長より、講演会のワークショップで参加者が各自提出した「千葉でヘルスツーリズム」事業企画のうち、コンセプトにマッチしたすぐれたアイデアの発表と講評がありました。



千葉興業銀行 眞田 心哉 氏



千葉銀行 櫛引 永氏 氏



和やかに歓談する参加者

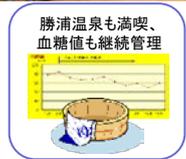
そして、「リピーターのことも考えられており、5年後の自分や半年後の健康に対する配慮もあり、見本となるプラン」という好ましい評価を受けた2人がそれぞれの企画案を説明しました。

雰囲気盛り上がったところで、お互いの名刺を交換しながら、和やかな懇談が続いていきました。

今回は千葉市ビジネス支援センターで行われたことで、地元の企業の方も多く参加されましたので、今後具体的な協力関係が得られるのではないかと期待されます。

宴たけなわの中、17時には、千葉銀行 法人営業部 成長ビジネスサポート室 医療・介護担当 主任調査役 櫛引永氏 氏により、中締めが執り行われ、威勢の良い一本締めで閉会となりました。ビルの窓からはロマンチックな港の灯りが見え、興奮冷めやらぬなかでの帰宅となりました。

このような素晴らしい会の共同主催に際して、ひとかたならぬご支援をいただいた千葉市産業振興財団の皆様、あらためて厚く御礼申し上げます。(市民研究員 永田映子)



「千葉でヘルスツーリズム」事業企画案の講評と選ばれた企画の内容発表に熱心に耳を傾ける参加者

成田山街歩き共想法:「地域NPO活動体験」授業参加者による企画・立案・運営

2014年1月よりはじめた、共想法と街歩きを組み合わせた手法「街歩き共想法」の第8回目は、2015年11月15日、千葉県成田市の成田山周辺にて行われました。千葉大学科目「地域NPO活動体験」参加者が、授業の一環として企画・立案・運営を行い、ほのぼの研究所が、授業受入NPOとして、全般をサポート、旅行計画に株式会社JTB千葉支店が、街歩き共想法の運営に千葉大学大武研究室が、その後の本作り企画に大日本印刷株式会社ソーシャルイノベーション研究所が支援という、多くが連携して行う初めての試みでした。

あいにくの小雨模様の柏駅前を8時半に出発したバスでは、学生作成の「旅のしおり」をもとに、ガイドンスを実施しました。成田山到着後しばらくすると、雨も上がり、現地集合組を合わせた、市民研究員、共想法継続コース参加者、賛助会員等ほのぼの研究所の関係者、大日本印刷の方、大武研究室、「地域NPO活動体験」の学生、総勢29名は旅の駅木屋観光センターで顔合わせをした後、気力・体力(脚力)に合わせた「健脚コース」「お散歩コース」「ごゆるりコース」の3グループに分かれて、成田山の街歩きに出発しました。



いつもは余り交流のない他世代のメンバーともおしゃべりを楽しみながら、色づき始めた成田山公園の自然を満喫して感動すると共に、境内の建物やたたずまい、参道に歴史や文化を感じ入り、七五三の晴れ着姿の家族連れの様子に心も和みました。

楽しいランチバイキングの後は、「成田山の秋」「成田山の今昔」「世界の中の成田山」の3テーマにそって、共想法を実施。様々な角度から話題提供されることに驚きました。活発な質疑応答では、話の輪がどんどん広がり、会場全体が笑いに包まれ、さらに成田山への興味が高まりました。そして大武先生の講評後の懇談は一層盛り上がりました。記念写真を撮り、16時半過ぎに、「今度はもっと赤く染まった成田山を眺めに来たい」という思いを胸にしながら、成田山を後にしました。

今回の、街歩き共想法を無事に終えることができたのは、大武研究室、ほのぼの研究所、そして株式会社JTB様、大日本印刷株式会社様の多大なるバックアップがあったからこそと、改めて心より感謝申し上げます。(千葉大学看護学部1年 對馬 愛果)



千葉大学科目「地域NPO活動体験」を通じた多世代交流

NPO法人ほのぼのの研究所は、千葉大学の「地域NPO活動体験」という科目（主として学部1、2年生が対象）において、2015年度、「健康観光支援サービスの開発による地域活性化体験」というテーマで、法政経学部、工学部、看護学部、園芸学部の計6名の学生の実習を受け入れています。

2015年6月の西千葉キャンパスにおける体験実施で、共想法と、その写真と話題を素材にしたフォトブック作成、8月6日の事業者様宛て企画セールス体験、9月15日のほのぼのの研究所の活動拠点での共想法継続コース見学と市民研究員によるほのぼのの研究所の活動に関する座学、そして11月15日の「成田山街歩き共想法」の企画立案、準備～実施へと、体験と座学を織り交ぜて授業が進められてきました。市民研究員にとっては、ふだんの大武研究室の学生との活動とは一味違って、市民研究員が主体的にサポートしたり、共同作業をする機会が増えました。貴重な体験をした充実した日々でした。

異世代との交流は学ぶことがたくさんありました。呑み込みが早くしなやかに対応して、短期間のうちに成長するのがわかり、頼もしく思いました。街歩きでは祖父母ほども年齢差のある研究員に歩調を合わせ、安全を見守ってくれる優しさも。学生からもらったエネルギーを糧に前向きに生きたいと思いました。（市民研究員Y. T）

街歩き共想法の計画主務者の選定を提案すると、早速手を挙げ、他学部の参加学生と連絡をとり、計画を実りあるものに纏め上げたのには感心しました。また、学生提案の街歩きテーマは新鮮で気宇壮大だと思いました。（市民研究員Y. H）

ことあるごとに、若さゆえの行動力と、バイタリティーに感動し、刺激を受けました。（市民研究員K. N）

「こんな孫がいれば…」と思わせる参加者との出会いに感謝します。「若いうちの苦労は買ってでも…」とは金言、この体験が今後少しでも役立つ日が訪れますように。自分の学生時代には余りなかった社会での体験授業はいいシステムですね。（市民研究員H. N）

協働事業者の声・エピソード

《きらりびとみやしろ》

きらりびとみやしろでは、3つのチームの皆様が「次の写真のテーマは何？」と楽しみにされています。そして、テーマに沿って撮った様々な写真がスクリーンに映し出されると、「へえ〜」「なるほど」・と、毎回知らなかったこと知って喜ばれ、「面白い」「すごい！」といった感想をいただきます。

テーマ設定やステップアップにも、チームごとに意欲的に挑戦しています。実施開始から5年目、体験・見学の方々も増えて、毎回賑やかに活発で楽しい共想法ができています。

（田崎 誉代）



《マカベシルバートピア》

マカベ共想法の参加者の中には、特別に楽しみにしていらっしゃる方がいます。

しばらくお休みしていたMさんは、無事退院して復活することになりましたので、実施者としても嬉しく思います。

Oさんはご自身も帯状疱疹を患われてお辛いですが、ご主人のお世話をしながら通っておられます。共想法のある日は朝からニコニコ顔になるそうです。

（永田映子）



これからの予定

- *1月26日 合同研修会
- *1月19日 継続コース冬学期開始
- *6月 設立記念講演会

参加者募集とお願い

*私たちと一緒に共想法の活動ができる方を募集しています。お問い合わせは下記へ。

E-Mail : frnoffice@fonobono.org

*賛助会員の更新、会費お支払手続きをお願い申し上げます。

編集後記

5人に1人が後期高齢者になるという未曾有の高齢社会突入の2025年にまで10年を切りました。

つい同年代と集いがちな私たちですが、活動を通じて他世代・他分野の方々との交流が広がることで相互理解の深まりを実感するとともに、貴重な体験ができることに感謝しています。再確認できた自分たちの立ち位置で、倦まず弛まずのぞんでいくことにいたします。本年もどうぞよろしく願い申し上げます。（編集子）

